

★今週の聖句

「祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。」

マルコによる福音書 11:24

★ ねらい

- ・ 「イチジクの木への呪いとその教訓 11:12-14、20-25」の間に、「イエスによる神殿清め 11:15-24」が挟み込まれている箇所である。双方共に聴衆は別となるが、イエスの要点は簡明にして簡潔。それは「祈り」である。更に掘り下げれば、「イチジク～」の場合はイチジクに重ね合わせて「祈る際の心構え」を語る。「神殿清め」の場合は、心構えが直接対象者に語られる。それぞれの状況に併せて、これらの箇所を選ぶことがよろしいかと思う。
また、伝統的な教会暦に従えばこの日は「全聖徒主日礼拝」が守られる日でもある。信仰の諸先輩方のご遺影と共に礼拝を守る教会もあろう。「祈りによって先に生き、祈りによって召された」教会の先達に続くものとして、教会を守り、支える意義を心新たに抱きたい。ファリサイ派の人々の思いに反し、人々はイエス様のもとに集まってきた。本当に正しいもの、光あるところにこそ、人は集まることを覚えたい。

★ 説教作成のヒント

- ・ イチジクの木を呪い、枯らすイエスの姿に違和感を覚えるかもしれない。
- ・ 「時期外れであり、外見のみ立派」というイチジクのようなではない、ということ。
- ・ 祈りとは形式ではない。心の中にある思い、言葉を申し述べるのが祈りである。片手の萎えた人がいた—実際は「萎えた（枯れた）手を持つ人がいた」

★ 豆知識

- ・ イチジクは果物。神は樂園追放のアダムとイブに、初めの着物としてイチジク葉を与えた。
- ・ 別の箇所でイエスは、イチジクの実の世話をする農夫の話をする（ルカ13章）。
- ・ イエスは、イチジクが嫌いだったということはない。7-8節に町の名前が出ているが、これはガリラヤを取り巻く地域が時計の反対まわりに列挙されている。イエス様の死後、成立する教会の普遍的な拮据りを既に象徴していると考えられる。

★ 説教

イエスさまはある日、ベタニアという名前の村を通りかかりました。そのベタニア村はどういう村だったか。ご病気でお仕事が出来なくなって、大きな町から追い出された人。お金がなくて、家を追い出された人。悲しくて、苦しんでいる人たちがたくさん住んでいました。イエスさまはその人たちを見て、かわいそうだな、苦しいだろうな、と思いました。そんな時思いだしたのは、大きな町に住むお金持ちや偉い人たちの様子でした。毎日がパーティ、毎日のご馳走。でも、お金持ちや偉い人たちは、自分たちだけでお金やご馳走を食べて、あとは何もしませんでした。これは酷いな、なんとかしなくちゃな、とイエスさまは思います。

そんなことを考えながら歩いていると、イエスさまは一本のイチジクの木を見付けます。葉っぱが立派に茂っています。実もあるかもしれませんが。お腹が空いたイエスさまは、そのイチジクの木に実を探そうとします。イチジクは甘くて、不思議な形をした果物です。ユダヤの人たちはこのイチジク

の果物が大好きでした。でもその時はイチジクに実が一個も成っていませんでした。イエスさまは悲しくなって、あと、さっきお考えになられていたことを思い出しました。葉っぱは立派でも、木も大きく育っていても、肝心かなめの実が一個もなっていない。大きな町に住む、お金持ちや偉い人と一緒だ。お金持ちや偉い人は、綺麗な洋服を着て毎日がパーティ、おご馳走。でも、中身は空っぽだ。悲しいなと思ったのです。

そこからイエスさまは、お祈りのことをお弟子さんたちや偉い人たちにお話ししました。外見とか、いつも使っている言葉とか、それだけじゃなくて、心からお祈りする心持ちが大切なんだよと。さあ。皆さんの中にもお祈りの気持ち、お祈りの言葉があると思います。家族のこと、大事なペットのこと。学校のお友達のこと、テストや試験のこと。心配なことがもしもあるときには、お祈りをしてください。お祈りの言葉はなんでもいいのです。神さま、これこれこういう心配なことがあります。助けてくださいと。お祈りを大切にしてください。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

90番

改訂版126番

やってみよう

☆祈りたい事を考え、その事が神さまからすでに与えられていると信じる事の大切さを感じる。

〈用意するもの〉

・はがき大くらいの画用紙…1人1枚ずつ ・えんぴつ、色えんぴつ

①今、自分が神さまに願いたい事をカードに1つ書く。

祈りたい事…自分のために神さまの力を与えてほしい事や誰かのために神さまの支えがほしい事など。

神さまに伝えたい願いをなんでもいいので、それぞれ考えて書いてみよう。

②書いたらカードを裏にして一箇所にとめる。

③トランプを切るように、シャッフルし、上から1枚ずつ皆に配る（裏のまま）

④配られたカードの白い面（裏）に「神はそれを与えて下さいました」と書いてみよう。

⑤自分の持っているカードの願いの文を1人ずつ読み、最後に「神はそれを与えて下さいました」という言葉を言ってみよう。

はなそう

お祈りのカードの文を他の人に読んでもらい、「神はそれを与えて下さいました」と告げられた時、どんな気持ちでしたかな？

★今週の聖句

「力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する。」

マルコによる福音書 12:33

★ねらい

- ・ 聖書の内容は簡潔にして簡明。当時の聖書であった旧約聖書の意味する所をイエスは簡潔に教え示した。本日の聖書が意図する所は、膨大な量の言葉の中から、人が覚えるにふさわしい聖書の言葉を提示することにある。神への愛、隣人への愛。私たちが覚えているか。

★ 説教作成のヒント

- ・ 本日の暗唱聖句は、「旧約聖書全体の要約」と言っても良い。
- ・ 新約聖書の要約は何か。ヨハネ福音書3章16節であると、ルターは言った。
- ・ 神を愛することは礼拝で、隣人を愛することは分級や遊びで具体化する。

★ 豆知識

- ・ イエスが答えた「第一の掟」は、旧約聖書、申命記6:4からの引用。
- ・ イエスが答えた「第二の掟」は、旧約聖書、レビ記19:18からの引用。
- ・ イエスの律法学者への答えは、旧約聖書を下敷きにしていることが多い。

★ 説教

「どの掟が最も重要でしょうか？」この問いで言われている「掟」は、613個あったそうです。私たちは当時の掟を、出エジプト記などで眺めることができます。大変な分量。その問いにイエスさまは「神を愛すること」「隣人を愛すること」この2つが要であることを言います。聖書の要約は「神を愛する」「隣人を愛する」その二つとイエスさまは言うのです。

さて、神さまを愛すること、隣人を愛すること。これがイエスさまの語ることです。けれどもこのイエスと律法学者の話し合いには一つの、大切な前提があります。それは「神が私たちを愛してくださっている」ということです。聖書は確かに、私たちが神さまを大切に、隣人を大切にすると言われています。その前提として、神さまが私たちを大切にしてくださる。私たちのことを、大切に思う方がいるということ、初めに皆さんは覚えてください。

じゃあ、どうしてそんなことが言えるのか？ 今日、イエスさまが律法学者のおじさんたちに答えた答えは旧約聖書の、「十戒」の要約です。その序文、出エジプト20章2節には「私は主、あなたの神」という言葉があります。私たちのことを愛し、大切に思うからこそ、「あなたの神」という言葉が出てきます。私たちが神さまに結びつきたいと思ったから、神さまへと結びついているのではない。私たちの神さまへの愛が先立つのではない。神さまの私たちへの愛が先立っているのです。私たちが思う以上に、神さまは私たちを愛してくださる。

聖書の別の箇所（申命記6:1-9）では「あなたは宝の民」という言葉がありました。「宝」というのは得難いものです。そういう場所にあるのが宝。私たちはそういうものに例えられているのです。私たちを指して「あなたは宝物」と呼ぶ声があります。「神と隣人を愛する」ことは私たちにとって

時に高すぎるハードル。自分自身ですら愛せないこともあります。そういうとき私たちは「あなたは宝の民」の言葉に立ち返りたいと思います。神さまから遠くにあると思われるときでも、神さまは私たちのことを近しく思っている。そのことを覚えてたい。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

3 番

改訂版 1 2 8 番

やってみよう

☆「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くしてあなたの神である主を愛しなさい」というみ言葉を考えて、そのことをゲームで体感してみよう。

〈準備するもの〉

- ・青、緑、黄、赤の色紙を人数分
- ・直径 60～70cm 程のフラフープ（なければ新聞紙で輪を作り、ビニールテープで巻く）
- ・透明のビニール袋(大)
- ・セロテープ

- ①フラフープに透明ビニール袋を貼りつける（セロテープを使う）
- ②神さま役の人がフラフープを持って立つ 1 m～2 m 位離れた所に千を引き、そこに他の人は並ぶ
- ③初めに 1 人ずつ青い色紙をもらい、「心」と言いながらその色紙を丸めてボール状にし、順番に 1 人ずつフラフープの中にそのボールが入るよう集中して投げる。
- ④全員投げ入れたら、次は緑の色紙を精神と言いながら同様に投げ入れていく。黄色は思い、赤は力と言い、同様に投げ入れる。



☆自分の心、精神、思い、力を尽くして神さまに聞き、従い、いつも神さまを求めていくこと…それは、フラフープの中にボールを入れてようと集中するのに、ちょっと似ていないかな？

色々な事があった時、神様に「どうじてですか？」と問いかけたり、「ありがとうございます」と感謝したり、「助けて下さい」と願ったり、いつも神様に向いて行くことが大切だね。神様の愛がたくさん感じられるようになるよ。

はなそう

自分を愛するように、隣人を愛するってどんな事？隣人って誰の事かな？

★今週の聖句

「この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた。」

マルコによる福音書 12:43

★ねらい

- ・当時の礼拝制度に関するイエスの批判の一つ。本日は献金の事柄が言われている。様々な制度に関してイエスはこれまでも批判を続けるが、その意図する所は「祈りとは何か」への問い。祈りの心の大切さだ。その祈りの心が形式化すると、信仰そのものもあやふやになってしまう。ところで、教会学校の献金はどのように用いられているだろうか。日本国内や国外の、必要とされている所のためにも、祈りの心と言葉と共に送る心持ちを大切にしたい。

★説教作成のヒント

- ・当時は、神殿には女性専用の祈りの場所というものが定められていた。
- ・レプトン銅貨で買えるものは、小麦粉一つかみ。一度の食事に必要な金額だった。
- ・そこからイエスの、命も含め、「自分の持っているものを全て」という言葉が続く。

★豆知識

- ・献金箱には13のラップが付属していて、多く捧げた場合は大きな音がしたそう。
- ・献金の際には、係官が献金の金額を大声で朗読するということにもなっていたそう。
- ・レプトン銅貨二枚＝1クアドランス。銭湯の一回の入場料。ごく小さなお金の単位。

★説教

いつも皆さんがしている献金について、今日イエスさまはその意味と大切なことを教えてください。献金はとても大切なことだけれども、でも、しなくちゃいけないとか、しなければ悲しいことがあるとか、そういうことはありません。じゃあ、イエスさまは献金についてどういうお話をなさったのか。イエスさまのお話には、女の人が出てきます。

今は皆さんに教会があります。昔の人には神殿という場所がありました。でもちょっとおかしかった。イエスさまの時代、神殿には「女性の庭」の場所があって、女の人はその奥には入れませんでした。献金の時には、賽銭箱の横に番人が立っていて、入れた金額を大きな声で発表するという事になっていました。「マリアさんの献金1万円！！」というように。心静かに祈るために神殿に来て、女性は定められた場所でしか祈れない。献金後に心を鎮めて祈ろうと思っても、自分の献金額が大きな声で発表される。ちょっと変でした。

この女性が捧げたものはレプトン銅貨二枚でした。だいたい、10円玉が二枚。献金が少なくて恥ずかしいという気持ちがあったかもしれません。でも、握りしめていた手を離した。献金額が発表されても大丈夫。どうしてかっていると、この女の人には祈りの気持ちがあったから。この人は、お祈りしたい気持ちがあって、それを献金と一緒に捧げたのです。イエスさまはそれで、この女の人のこと

を、すごいね、立派だねとおほめになったのですよ。

皆さんは献金の時に、どのような気持ちでお金をお捧げしていますか。今、日本や世界のいろんな場所で、災害があったり、戦争が続いたりしています。そういう人たちのことを思って、お祈りをして、献金をすることも大切だなと思います。大丈夫かな、神さまと一緒にいるよ、神さまがこの献金を使ってくださいね、そういう気持ちで献金をしましょうね。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

116番

改訂版24-2番

やってみよう

☆神さまへのお手紙ポストを作ってみよう

- ・適当な大きさの箱を準備し、みんながいつでも神さまへお手紙が入れられるお手紙ポストを作ってみましょう。箱の外側は、画用紙や折り紙を使って自由にポストを飾りましょう。お手紙を入れられるよう、切り込みを入れましょう。

☆神さまに手紙をかいてみよう

- ・この1週間を振り返って、神さまに心からありがとうと思ったこと、また、ごめんなさいと思った事をお手紙に書いてみましょう。毎週、お手紙ポストに入れると良いですね。

はなそう

- 貧しいやもめは、自分の持っている物を全部、生活費のすべてを神さまにお捧げしましたね。この女の人は、どんな気持ちだったでしょう。
- 礼拝の中で、みんなは献金をしますが、みんなはどんな気持ちでお捧げしていますか。話してみましょう。（もったいない？）
- 心からのありがとうとごめんなさいの気持ちをお捧げする事が大切ですね。

★今週の聖句

「人の子が戸口に近づいていると悟りなさい。」

マルコによる福音書 13:29

★ ねらい

- ・ 聖書は「終末」を語る。いわゆる「世の終わり」を表す。マルコ福音書が書かれた時代、この終末思想は流行していた。既存の体制に不遇、不十分な扱いを受けていた人々の内に少なからず浸透した。既存の体制に代わり新しい天地、新しい支配者が到来するという教えだ。今日、使徒信条、ニケア信条で「世の終わりを信じます」と唱えているように、私たちの教会でもその教えは存在する。だが終末思想が声高に教会の中で上がることは少ないであろう。様々な伝統的宗教から終末思想の一部の内容を引用し、拡大解釈し、破壊的な活動に至った宗教団体を思い出すからだろうか。何か終末思想に胡散臭いものを感じるからだろうか。一方で、今日「終末」という言葉には「個々人の命の終わり」という一般的な意味が付与されている。「終末期医療」（ターミナル・ケア）など。本来の終末思想の観点を踏まえつつ、今日的な意味からの説教が望ましいかと思う。身近な者の命の終わりという点はどうか。そして「地上の命の終わり」は「新しい命」に至る時という、キリスト教的な意味合いも踏まえたい。「ターミナル」とは連結点の意味合い。死は新しい命に生きる時と覚えたい。イエス様の言葉は人間を動かすだけではなく、自然をも支配され、天地を創造された神さまの言葉と同じ力をもつことを覚えたい。

★ 説教作成のヒント（説教は13:28-31）

- ・ イエスはイチジクの木を引き合いに出し話す。季節感や植物の兆候を用いて終末を語る。
- ・ この説教の時節は秋の終わり、冬の入口。身近な植物の冬支度の様子を語っても良い。
- ・ イエスさまの愛の言葉に包まれて、生きる者も召された者も憩うことを語りたい。

★ 豆知識

- ・ イエスがこの話を語った時期は、春先（過越祭）近くであったと考えられる。
- ・ イエスは春に、夏の植物であるイチジクの話をする。人生の目標を意識するということ。
- ・ 次の14章では、十字架に備えたイエスの裁判が始まる。イエス自身も死を意識。

★ 説教

もうすぐ、寒い冬がやってきます。近くでは植物たちが冬の用意をしていると思います。冬が終わったら、春になります。イエスさまは今日のお話を春にしたそうです。ユダヤの春は雨が降り、寒かったようです。けれどイエスさまは今日、冬ではなく、夏のお話をします。イチジクのことです。春は葉も堅く実も実らせないイチジクも、夏が来れば葉と実を付けます。今は嫌なこと、大変なことがあっても、やがて葉を付け、実を实らせる時代が来ます。

私たちのいのちは、何時かは終わる時がきます。なかなか自分の命の終わりということは難しいし

怖いし悲しいけれど、身近な家族とかペットのお葬式に出たことがある人がいるかもしれません。大好きな家族やペットが先に死んでしまうと悲しいよね。その人やペットたちはどこへ行ったのかな。家族だったらお墓の中かもしれないし、ペットだったら庭の木の下かもしれないよね。でも、先に死んだ家族やペットの心は、天国で神さまの横にいて、過ごく幸せな時を過ごしているのだよ。そして私たちもいつの日か、そういう日が来るのよ。

生きてると、嬉しいこともあるけれども、嫌なこともあります。学校でもそういうことがあるかもしれません。でも今日の聖書の言葉でイエスさまは「私の言葉は決して滅びない(31節)」とお話し下さいます。みんなはイエスさまのいろんな言葉を知っていると思いますけど、イエスさまの愛の言葉を胸に入れて、これからの日々を過ごして欲しいと思います。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

36番

改訂版85番

やってみよう

☆教会の大掃除をしよう

- ・来週から、教会では新しい1年が始まります。その前に教会をみんなできれいにしましょう。こどもたちに取り組めるお仕事を準備します。

☆数当てゲームをしよう

- ①みんなは、目を閉じます。
 - ②リーダーは、「さんはい」と大きな声で合図をしてから、手を叩きます。(1回～ランダムに好きな数だけ)
 - ③こどもは、いくつ叩いたかを当てます。(それぞれ紙に答えを書いても、一人ずつやって良い)
- ※ルール：絶対しゃべらない。叩く人は、はっきりと同じテンポで。

「さて、どのくらい当たったでしょう。注意深く聞かないと難しいですね。神さまの言葉も同じです。イエス様が戸口に近づいていると悟るものになりましょう。」

はなそう

- 今日は、教会のカレンダーでいうと1年の最後の日曜日になります。みんなのお家では、大晦日というとなんな事をしますか。
- 教会での1年を振り返り、どんな事があったか話してみましよう。楽しかったこと、悲しかったこと。
- 今日の聖書箇所を読みます。
- この世に終わりのないものは何だろうか。